

江東未来会議
第3分科会（健康・福祉分野）
第7回 議事概要

日時：平成20年2月19日（火）19:00～21:00
場所：江東区文化センター2階 旧区政PRコーナー
参加人数：16人

1. 開会

【事務局より基本構想審議会委員選出者の報告】

2. 本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

3. ワークショップ

(1) グループ討議 1

2つのグループに分かれて、新しいアイデアや提言書（案）の内容について意見を整理した。

(2) 全体討議 1

(1) グループ討議の結果を発表し、全体で内容を確認した。

(討議)

辻ファシリテーター

・まずは、各グループ新しいアイデアから発表して頂きたい。

参加者

- ・「老若共同参画の実現」の、世代を超えた交流を目指すために、図書館、文化センター、スポーツセンターなどの地域にある施設を中心とした事業を拡大する。こうした施設の場での世代間交流を促進する。
- ・内容的には「地域コミュニティの再生」の概要の追加修正になる。

参加者

・「事業の拡大」というのは具体的にどういったことを想定しているか。

参加者

・世代間交流に関する取り組みは少ないので、世代間が交流出来るようなテーマに変えていくということである。

辻ファシリテーター

- ・具体的に追加するときに、今の内容を修正する。

参加者

- ・現実的には老人センター等におけるスポーツや社交ダンスは補助金が出ていたのが削られているが、一般的な各種福祉サービスの充実を最初に図るべきではないか。
- ・スポーツの振興や社交ダンスをやるということは福祉サービスなので、福祉サービス全体を拡充するということはできないか。

参加者

- ・ご指摘の内容は、「目的」として記載されている内容に追加したいということか。あるいは概要を補足したいということか。

参加者

- ・概要を補足したいということである。

参加者

- ・文章が長いので、少し要約した方がよいのではないか。

辻ファシリテーター

- ・内容として追加することは皆さんにご承認頂いたと思う。記述については別途事務局で対応して頂く。

参加者

- ・「高齢者、障害者等の自立支援」の中で、消費生活の項目がないことに気が付いた。第2分科会でも議論されていないようだ。高齢者、障害者の消費生活の安定・向上といった内容で追記した方がよいのではないか。
- ・特に障害者の場合には、障害のことを知らない職員も多いので、障害者や高齢者に対応出来る相談員を設置するという事にはどうか。
- ・聴覚障害関係の団体で、消費生活センターに講師をお願いしたが、相談員は聴覚障害について十分に理解がなかった。そのため、聴覚障害や視覚障害者に理解のある相談員を配置したほうが良いと思う。もちろん、今の相談員がそうした知識を持つということでも良い。

辻ファシリテーター

- ・文章はともかくとして「 」として追加するか「 」として追加するか。
- ・「 」として追加するなら、「住宅・経済基盤の確立を支援します」という中に入れるというご意見があったが、「 」として追加するか「 」として追加するかについては事務局にゆだねたい。
- ・追加することについてはご承認頂いたと思う。

参加者

- ・医療・介護・高齢者福祉に関するものだが、新しく「救急医療受け入れシステムの検討・構築と運用」というタイトルで「 」印のアイデアを追加してはどうか。
- ・今、救急車のたらい回しなどの救急医療に関する問題が指摘されているので、こうしたことに対応した方がよい。
- ・主体や内容については別途事務局側でも検討して頂きたい。

参加者

- ・医療・介護・高齢者福祉のところであるが、具体的なアイデアとして、医療の質の向上のために医療の不正のチェック機能システムを構築する、ということでしょうか。

参加者

- ・限られた資金を有効活用するために、医療だけではなく介護保険なども含めて、例えば介護保険料を不正に着服するなどの不正を防ぐような仕組みがあると良い。

辻ファシリテーター

- ・そういった内容であれば、医療・介護・高齢者福祉の一番最後に「不正のチェック機能システムを構築します」を追加して、医療と介護についての不正を防ぐための取り組みを追加する。
- ・内容については別途検討したい。

参加者

- ・医療・介護・高齢者福祉の将来像の のタイトルについて、「介護制度の充実」という表現がわかりにくいことから、「介護サービス・介護施設等が充実・機能することにより、心豊かな生活を～」と修正する。

参加者

- ・「心豊かな生活」というのは抽象的でわかりにくいのではないか。

辻ファシリテーター

- ・それは、今の「有意義」という表現でも同じだろう。

参加者

- ・介護制度の充実という表現は適切ではないが、現在のサービスで不足しているといった問題は、その背景として制度上の問題があるということを含んでいるのではないか。もし、そうであれば、「介護制度」という表現は残した方がよいのではないか。
- ・介護制度を決定するのは国であるが、区としても国に対して意見提案することができる。

参加者

- ・修正案は非常に良くできていると感じたが、今のご指摘の通り、介護制度という言葉は重要ではないか。

参加者

- ・「介護サービス・施設等が充実・機能するように『介護制度を見直し』～」と続くのでどうか。

参加者

- ・文章の表現をどのようにするかではなく、介護制度もしくは介護保険制度という内容を追記すべきかどうかを議論した方がよいのではないか。

参加者

- ・内容は重要だが、表現の仕方を議論することは、やや枝葉末節にとらわれすぎているのではないか。

参加者

- ・介護制度が充実しているということは当たり前である。わざわざタイトルで指摘するようなことではなく、本文中で触れるのでよいのではないか。

辻ファシリテーター

- ・今の提案について、他の参加者の合意が得られるということなので、介護保険制度の見直しや改善ということを文章の中で入れるということにしたい。

参加者

- ・文章全体に「高齢者」といった言葉が多すぎる
- ・例えば、「老若共同参画社会の推進」の将来像の で「若い世代の健康もたもたれているまち」の前に「子どもや若い世代の～」を追加してはどうか。
- ・現状及び問題認識や具体的事業のアイデアなどの言葉も同様である。
- ・子育てについては別の分科会があるが、検討の世代を広げているということを示した方がよいのではないか。

辻ファシリテーター

- ・説明文の中に入れることでも良いということをご皆さんから確認した。
- ・子育てについては別の分科会があるので、説明文中の中で世代が広がるような表現を追加する。

参加者

- ・「高齢者の生きがいづくり」の概要に、娯楽について江東区に名画座、映画の撮影場所などを設置するといった内容を追加してはどうかという意見が出された。

参加者

- ・江東区には名画座と称するものがない。今後高齢者も増加するため、新しくハコモノをつくるということではなく、既存施設を活用して、老若男女が楽しめるサービスを提供した方がよい。

辻ファシリテーター

- ・サロンや交流場所という例示の中に今の内容を追加することでどうか。
(賛成を確認)

参加者

- ・新しい取り組みのアイデアとして、バリアフリー関連の意識向上のために、バリアフリーの推奨レベルを設定して全体のレベルの向上を図るべきといった提案があった。

参加者

- ・バリアフリーの観点から設計しているといっても、全体として使えるレベルになっていないことも多い。例えば、火災警報機の設置率が高くても、音声でしか案内がされないといったこともある。
- ・聴覚障害者など障害を持つ人が参加している場でバリアフリーの推奨ランクを定めて、施設整備時によりよいものを選択して頂くという取り組みを進めてはどうか。

参加者

- ・「情報のバリアフリーの促進」の概要の補足として、区民全てが共通に情報を取得出来るような機器の設置ということを追加してはどうか。

辻ファシリテーター

- ・今の「情報のバリアフリーの促進」の概要の追加については異論がないところだと思うので追加するようにしたい。
- ・一方で、障害者が参加してバリアフリーの基準を設けるということか。

参加者

- ・例えば、今の基準では、スロープがあっても大回りしないといけなかったり、放置自転車があって活用出来ないといった問題がある。

参加者

- ・例えば、障害当事者の参加によるバリアフリーの促進ということがあり、その中で、バリアフリーに関するランクを決めるといったことか。

辻ファシリテーター

- ・加えて、社会的弱者が使いやすくなるようなバリアフリーのあり方について検討すると

いうことを追加するというご指摘であろう。

参加者

- ・その指摘の内容を新しく「 」レベルで追記すべきではないか。

参加者

- ・Aグループでは他にも幾つか意見が出ている。どうしても発言したいというものがあれば各自でご発言頂ければと思う。

(特になし)

辻ファシリテーター

- ・それでは今までの内容を含めて全体を修正して頂くこととする。

事務局

- ・欠席している参加者から、医療機関の充実に関する項の医療機関については「公立の」という形容詞をつけた方がよいのではないかと、というご意見があった。この点についてご議論頂ければと思うがいかがか。

参加者

- ・公立がよいとは限らず、特にそういった形容詞はつけない方がよい。

辻ファシリテーター

- ・それでは、現状の案のままということにしたい。

4. 事務局からの連絡事項

【事務局から今後の提言書の確定に向けてのスケジュール等を説明】

【発表者を選定】

【事務局より発表会について案内】